

E1A 新名神高速道路 大津 JCT(仮称)～城陽 JCT・IC間連絡調整会議(第 2 回) 議事概要

1. 開催日時

令和 6 年 1 月 17 日(水) 10:00 ～ 11:00

2. 構成機関

近畿地方整備局 道路部

近畿地方整備局 京都国道事務所

滋賀県 土木交通部

京都府 建設交通部

大津市 建設部

宇治田原町 建設事業部

城陽市 まちづくり活性部

西日本高速道路株式会社 関西支社 建設事業部

西日本高速道路株式会社 関西支社 新名神大津事務所

西日本高速道路株式会社 関西支社 新名神京都事務所

3. 議事

(1)新名神高速道路(大津 JCT(仮称)～城陽 JCT・IC 間)の概要

(2)新名神高速道路(大津 JCT(仮称)～城陽 JCT・IC 間)の進捗状況と課題

(3)意見交換

4. 議事概要

(西日本高速道路(株)より説明)

○大津 JCT(仮称)～城陽 JCT・IC 間は、土工区間が約 6 割、橋梁区間が約 3 割、トンネル区間が約 1 割の約 25.1 km を事業中。

用地取得は全て完了しており、全線に渡って土工やトンネル、橋梁の工事を推進中

○信楽川橋の P4 橋脚の基礎杭構築において、事前の調査では確認できなかった硬岩が発見。国道が近接していることから、通常発破に比べ振動の少ない非火薬による破碎工法を用いて、国道への落石等がないよう、安全かつ慎重に施工を進めており、工事に時間を要している

○宇治田原 IC 部において、ウッドショックで代替施設の建築工事に必要な木材の調達が遅れたことなどにより、建築工事に時間を要したため、用地引渡し時期に更なる遅れが発生

地権者と協議を行い、土地の引渡しが未了の段階から既存建物の撤去工事と並行して、令和 5 年 8 月より地盤状況を把握するためのボーリング調査に着手

山砂利採取後の埋戻しが広範囲に分布しており、一部の箇所において埋戻しの深さが事前探査に比べ約 10m 程度深いことが判明したため、安全な盛土を構築するための地盤改良の範囲が増加

また、局所的にコンクリート殻等が発現したため、今後工事の進捗に合わせ着実な撤去(分別)作業が必要

- 城陽スマートIC部において、土地引渡し後のボーリング調査結果より、山砂利採取後の埋戻しが広範囲且つ軟弱な地盤であることが判明し、安全な盛土を構築するための地盤改良の範囲が大幅に増加したため、工事に時間を要している
- 以上より、大津JCT(仮称)～城陽JCT・ICの2024年度(令和6年度)の開通は困難な状況であり、今後の工事進捗を踏まえた工程精査が必要

(意見交換)

- 開通が遅れることは非常に残念ではあるが、安全に十分に配慮した上で1日も早い開通をお願いしたい
- 新名神開通に対する地元の期待は大きいことから、地元にも丁寧に説明をしていただきながら、1日も早く開通できるよう、事業を推進していただきたい
- 周辺では新名神と関連した道路事業や民間事業等が進められている。今後も進捗状況等の情報共有及び事業調整を図っていただくとともに新たな開通予定時期については、できるだけ早く提示いただきたい